

尿

〔塵塚談上〕月役は田舎にて婦女の經行之節は、別居して、其節の仕業に、屋根へつかふわり木を拵へしものゆへ、月役と號しとなり。

〔倭名類聚抄^三垂〕尿 説文云尿奴甲反、和名由波利、小便也。

〔箋注倭名類聚抄^二垂〕下總本注末有日本紀私記作尿和洩九字、按尿見神代紀上、和洩字恐有誤、醫心方溺洩並同訓、按神代紀訓注、尿此云愈磨理、今俗牛馬尿呼波利、蓋由波利之上略也、神代紀送糞訓俱蘇磨屢、謂放爲磨屢、然則由波利、湯磨理之義、略原書尾部作尿、按玉篇云、今作尿、原書

小便上有入字、

〔類聚名義抄^七尸〕尿奴甲反、ユハリ、又音雖和子ウリ、尿^二正、溺^一或溺非、尿屬屬尿尾^六俗

〔伊呂波字類抄^由人體〕尿ユハリ 尿 洩 淡淡也、亦謂之前淡、溺定已上

〔倭訓栞^{前編十一}志〕しと。紫式部日記、清少納言に、小兒の小便をいへり、今し。といふ是也、しとる義なるべし、細流にしと筒見えたり。

〔日本書紀^{神代一}〕一書曰、伊弉册尊且生火神、軻遇突智之時、悶熱懊惱、因爲吐、此化爲神、名曰金山彦、次小便化爲神、名曰罔象女、次大便化爲神、名曰埴山媛。

〔日本書紀^{神代一}〕一云、伊弉諾尊乃向大樹放尿、此即化成巨川、泉津日狹女將渡、其水之間、伊弉諾尊已至泉津平坂。

〔常陸風土記^{那賀郡}〕平津驛家西一二里有岡、名曰大櫛、上古有人、體極長大、身居丘壟之上、採蜃食之、其所食具積聚成岡、時人取大朽之義、今謂大櫛之岡、其大人踐跡、長册餘步、廣廿餘步、尿イハリノアト、穴趾、可廿餘

歩許、

〔續日本紀^{一文一武}〕四年三月己未、道照和尚物化、天皇甚悼惜之、遣使即弔、賻之、和尚河内國丹比郡人也、俗姓船連、父惠釋少錦下、和尚戒行不缺、尤尚忍行、嘗弟子欲究其性、竊穿便器、漏汗被褥、和尚乃微笑